

今週のメニュー

■トピックス

- ◇ゲリラ豪雨対策 私たちの身近なところで塩ビ製品が貢献
ー止水シート、雨水浸透ますー

■随想

- ◇小笠原紀行（その3）

上智大学 地球環境学研究科 織 朱實

■編集後記

■トピックス

- ◇ゲリラ豪雨対策 私たちの身近なところで塩ビ製品が貢献
ー止水シート、雨水浸透ますー

本格的な梅雨のシーズンを迎える中、今年も局地的に短時間で大雨が降る、いわゆる「ゲリラ豪雨」の被害が心配されますが、まだまだ十分な対策が講じられていないのが現状です。そんな中、塩ビ製品で対応ができて効果的なゲリラ豪雨対策を二つほどご紹介します。

これまで、個人で出来る「ゲリラ豪雨」対策と言えば、土嚢を1つ1つ手積みすることくらいしか出来ませんでした。土嚢1つの大きさは約20Kg、これを積み上げるのは成人男性でも大変な作業です。これを解決する提案の一つのが、文化シャッター(株)が開発した簡易型止水シート「[止めピタ](#)」です。雨水の侵入を防ぎたいガレージのシャッターやビルの玄関などの下部に塩ビ製軟質シートを張り付け、重しで固定するだけで、約5分程度で設置が完了出来ます。約1.5mの場合、約30袋の土嚢（約600kg）が必要ですが、「止めピタ」なら1枚で止水が可能になります。使用後の手入れも簡単で、持ち運びしやすい大きさで、普段の収納、いざという時に設置も容易に出来ます。こうした特徴と「水圧を利用して止水シートをドア側に密着させようという、逆転の発想がとても斬新である。」という評価を受け、2014年グッドデザイン賞を受賞しています。



「止めピタ」
文化シャッター(株)

道路のアスファルト舗装化で、私たちの生活はとても便利になりましたが、一方で、雨水は地中に浸透しにくくなり、そのまま下水道に流れ込み、「ゲリラ豪雨」ではその処理能力を超えてしまい道路が冠水する問題が多発しています。それを解決するのが、プラスチック・マスマンホール協会が推奨する「[雨水浸透ます](#)」です。これまでの「雨水ます」は雨水をいかにスムーズに雨水管路や排水路にとおして下水道に集め流すために用いていました。それに対して「雨水浸透ます」は底面と側面に多くの穴が開いた多孔型で、自然に近い形で[雨水を地下に浸透させる](#)ことを目的に設計されています。主に個人の住宅内で設置され、生活の末端で活躍する雨水設備と言えます。最近では助成金を出す自治体も増えてきているようです。

なお、同協会では、塩化ビニル管・継手協会との協力で塩ビ製のます・マンホールのリサイクルに取り組んでおり、リサイクル原料を用いた製品も開発されています。

今回紹介した商品以外でも、塩ビ製品は私たちの身近なところで我々の生活をサポートし続けていきます。

■ 随想

◇小笠原紀行（その3）

上智大学 地球環境学研究所 織 朱實

小笠原の街の中を歩くと、アメリカの街を歩いているような不思議な感覚に襲われます。日本とは思えないような明るい屋根と白い壁の家並みが連なり、この中を、欧米系の顔立ちの島民のかたが流暢な日本語を話しながら歩いているのを見ると、「ここは日本？グアムでは？」と思わず思ったりします。このアメリカ風の家が連なるのは、小笠原の歴史が関係しています。沖縄の米国領、返



還の歴史は広く知られていますが、小笠原にも米国領の時代があり、やはり苦難の末返還された事実はあまり知られていないと思います（実は私もよく知りませんでした）。本州からはるか遠く外洋に浮かぶ小笠原諸島では、航海術が発達しはじめた 17 世紀頃から様々な国との領土のせめぎあいが行われていたそうです。ロシアや英国の難破船が上陸するようになり、江戸幕府も上陸調査を実施したもののその後無人島として放置していたため、19 世紀には英国が領有宣言を行ったこともあったそうです



さすが、worldwide な標識！

1830 年には、現在も小笠原の欧米系島民の方の名字に多く見られるセボレー（日本名では「瀬堀」さん）姓の欧米人とハワイ人が父島に入植したそうです。この時代、小笠原は捕鯨の重要な基地として、諸外国からその重要性が認識されており、様々な外国人が上陸し生活していたようです（母島にも無人島の兄島にも、今も鯨の解体基地あとが残っています。また、ビーチにも当時を思わせる欧米系の名前がつけられ今でもジョンビーチ等残っています）。その後、第二次世界大戦が勃発し、島民は全員強制

疎開させられることとなります。硫黄島は激戦地となり、父島にも軍事基地がおかれまし
た。敗戦後は、米国領となり、欧米系住民とその家族のみが帰島を許されたのです。この
時代に、父島は島民 200 人足らずの「米国」となり、米国風の家屋が建てられたのです。
その後、旧島民らの地道な返還運動が実り、1968 年には日本に返還されました。現在の小
笠原島民は、約 2000 人。旧島民、欧米系島民に加え、小笠原に観光で訪問しそのまま小
笠原が大好きとなり移住した新島民で構成されています。

現在日本全体が、少子高齢化問題に直面している中、小笠原島民の平均年齢はなんと 40 歳、15
歳未満の年少人口も約 400 人弱と、平均年齢が若く子供の多い人口構成と理想的な構成になっ
ているのです。小笠原の新島民のかたと話していると、必ず、『子育てをするには小笠原が最高！』
という話題がでてきます。保育園も充実し、自然環境が素晴らしい小笠原は子供をつれて移住し
てくるには良い環境のようです。インフラに関しては、父島には、信号機が一つしかなく母島には
一つもないのですが、上下水道、電気等の基本的インフラは米国領であったこと、返還後の国と都
による整備が行われたこともあり整っていること



商工観光会館(B-しっぷ)でも
鯨がお出迎え

とも新島民が増加する背景にはあるのでしょうか。ただ、自給自足が難しいこと。加工品、
乳製品等は東京から運び込まれているもので賄われているため割高で、島製品というと、
島塩、はちみつ、パッションフルーツ、マンゴ、母島名産のトマト等限られたものになっ
ているため島の物価は決して安くはありません。とはいえ、青い海、豊かな自然、人間ら
しい生活をもとめて移住してくれる新島民は今でも多く、人口は微増しているそうです。

一方で、硫黄島の旧島民はいまだ帰島が認められていないという問題や、緊急医療問題、
飛行場の建設問題、そして世界遺産登録に伴う観光地としての整備、自然環境保全等の課
題もあります。

決して物価が安くない小笠原ですが、私もそうですが、小笠原を訪問し、その後もまた
小笠原に戻りたい！と思わせる小笠原特有の行事があります。これが、「小笠原丸の出港見
送り」です。

小笠原には、観光客だけでなく、工事関係で長く滞在していらっしゃる方、国や都の職
員の方、自衛隊の方、様々な人たちがいますが、こうした長く生活してきた人たちもま
た新しく赴任してくる人たちも必ず小笠原丸で港を発着するのです。こうした人たちを、
港で小笠原太鼓、フラダンス等でお見送り（お迎え）をするのが、小笠原名物のお見送り
です。港でのお見送りだけでなく、船が出港した後も、漁船、観光ボート等で小笠原丸の
追走をしてくれるのです。追っかけられないところまで来ると、みんなボートから飛び込
んで海の中から手を振って、見送ってくれます。これが本当に感動的で、見送られる人々
は小笠原丸のデッキの上から、「もういいですよ！」「有難う！」「また来るよ！」と声をか
らして叫ぶのです。どこまでも追走してくれるボートの景色は、「もう一度小笠原に戻っ
てきたい」と思わせるものがあるのです。



小笠原名物の『お見送り』。港でも、海上のポートでも名残惜しく....。

今回は、小笠原の食べ物についてご紹介したいと思います。

なお、今回の小笠原の歴史部分については、25時間の船旅の中で読破した『幕末の小笠原～欧米の捕鯨船で栄えた緑の島』（1997年、中公新書、田中弘之著）と『小笠原クロニクル～国境の揺れた島』（2005年、中公新書ラクレ、山口遼子著）によるものです。

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

もう7月中旬。

子供たちは明日が終業式で、楽しみな夏休みに突入です。

私も、子供の頃は夏休みを楽しみにしていました。遊びに行く事しか考えていないので、休み終盤に宿題に追われる日々。今の子供達は友達と遊ぶのもゲームを家で一緒にやるだけで外で遊ぶことはありません。確かに外で遊ぶのは猛暑で心配。数十年前は今よりかなり涼しかったのかなーなど気候の変化を実感しています（リマル）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp